

LIFULL新生活アンコン語実態調査2023

サマリーレポート

既成概念に縛られず誰もが自分らしい新生活のスタートが切れることを目指し、「しなきゃ」という既成概念の背景にある無意識の思い込みを指す概念「アンコンシャスバイアス」がひそむ言葉を“アンコン語”と名付け、実態を可視化する試み「LIFULL新生活アンコン語実態調査」を実施しました。年代や性別、LGBTQの方、外国籍の方、障がいを持つ方、シングルマザー/ファザーといった対象者1,000人に、アンコン語に対する気づきや経験について聞いた調査となっています。本調査は、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事 守屋智敬さんに監修いただきました。



INDEX

1.	LIFULL新生活アンコン語実態調査とは？	02
2.	「実際に言われて違和感を感じたアンコン語」ランキング	04
3.	「思ったことがあるアンコン語」ランキング	07
4.	アンコンシャスバイアスという言葉の認知について	09
5.	アンコン語を防ぐには？[一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事 守屋智敬さんより]	10
参考.	本調査における対象者の抽出条件について	12

「1」

LIFULL新生活アンコン語実態調査とは？

アンコン語。それは、アンコンシャスバイアス(＝無意識の思い込み)がひそむ言葉のこと。

知らず知らずのうちに私たちを縛る「〇〇しなきゃ」という既成概念の背景には、

様々なアンコンシャスバイアスがあるとLIFULLは考えています。

新しい出会いや環境の変化も多い新生活シーズン。もしかしたらあなたも無意識の思い込みに出あうかも？！

まずは気づくことから始めるために、LIFULLは新生活にまつわる「アンコン語」の実態を調査しました。

調査名	LIFULL新生活アンコン語実態調査2023
調査対象者	☐ 年齢: 20～80歳代 ☐ 属性: 全国の男性、女性、シングルマザー・ファザーの方 / 外国籍の方 / LGBTQの方 / 障がい者の方 ☐ 人数: 合計1,000人
調査期間	2023年2月4日(土)～2月13日(月)
調査方法	インターネット調査(シグナルリサーチ)
調査主体	株式会社LIFULL
監修	一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所
抽出条件	☐ 【性別】⇒「自認している性」についての回答によって判別 ☐ 【シングルマザー・ファザーの方】⇒「未婚(離婚 / 死別含む)・子あり」回答によって判別 ☐ 【外国籍の方】⇒「日本国籍を有していない」回答によって判別 ☐ 【LGBTQの方】⇒「出生時の性別」「自認している性別」「性的志向」についての回答によって判別 ☐ 【障がい者の方】⇒「身体的・知的・精神的障がい」についての回答によって判別

アンコン語一覧

不動産・住宅情報サービスのLIFULL HOME'Sや、老人ホーム・介護情報サービスのLIFULL 介護を運営するLIFULLでは、さまざまなソーシャルメディアの生活者のリアルな声から、住まいや介護に関する約50のアンコン語を一般の方々の言葉の中からピックアップしました。

住まいに関するアンコン語

- ・「男性ならオートロックじゃない物件でもいいよね」
- ・「男性がキッチンにこだわるなんて変わってる」
- ・「キッチンは女性を使うものだよ」
- ・「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」
- ・「家に書斎があるなんて、ご主人がうらやましい！」
- ・「世帯主といえば男性でしょう」
- ・「女性が家を買うなんてすごい！」
- ・「同棲ってことは結婚するんでしょ」
- ・「男性同士のルームシェアは、きれいに使ってくれなさそう」
- ・「シングルマザー / ファザーって探せる部屋が限られそう」
- ・「外国籍の人はペット禁止物件でも、ペットを飼いそう」
- ・「外国籍の人はパーティをひらいて騒ぐからイヤ」
- ・「夫婦で新しい家を探すなら、子ども部屋も考えておかないと。」
- ・「30代独身で家を探すなら、結婚を見据えた物件がいいよ」
- ・「同性同士で家を買うなんて変わっています」
- ・「高齢なのに、WEBサイトで部屋探ししているなんてすごい！」
- ・「高齢だと家賃を払うのが大変そう」
- ・「車椅子の人は、バリアフリー物件じゃないと暮らせないよね」
- ・「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」
- ・「女性は結婚するまで実家にいたほうがいい」
- ・「家を買うなんて、結婚は諦めたんだね」
- ・「子どもがいるなら、家を購入したほうがいい」
- ・「男は家を買ってはじめて、一人前だ」
- ・「結婚したのに一緒に住んでいないなんて変わってるね」
- ・「古い物件に住んでるってことは、お金に困ってそう」
- ・「中古住宅を買うなんて後悔をするに決まってる」
- ・「女性で単身赴任なんて、ご主人は理解があるね」
- ・「LGBTQの人って、ご近所付き合いが大変そう」
- ・「男性なら転職をしても問題ないでしょ」
- ・「職場近くに住むなんて仕事熱心だな」
- ・「都会に住んでいる人は冷たい」
- ・「縁もゆかりもない場所に移住するなんて変わってる」
- ・「引越しは子どもがかわいそう」
- ・「障がい者の一人暮らしは無理でしょ」
- ・「リモートワークしている人は、ちゃんと仕事してなさそう」
- ・「定年後は田舎でのんびり暮らすのが良いでしょう」
- ・「長男だから、いつか親と同居するでしょ」
- ・「シングルマザー / ファザーということは、親が近くに住んでいるものですよ」

介護に関するアンコン語

- ・「親を老人ホームに預けるなんて可哀想」
- ・「親の介護は、子どもがするものでしょ」
- ・「長男・長女なんだから介護をしなきゃ」
- ・「男性なのに介護で長期間仕事を休むなんて変わってる」
- ・「介護は息子の妻がするものでしょ」
- ・「介護で長期間仕事を休むなんてキャリアは諦めたのかな」
- ・「仕事と介護を両立するのは無理だ」
- ・「子どもがいないと、老後は面倒を見てくれる人がいなくて大変」
- ・「要介護度が低いと、介護は楽だよ」

「2」 「実際に言われて違和感を感じた アンコン語」ランキング

「住まい」カテゴリ全体では、「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」が1位、「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」が2位にランクイン。

個別のトピックについては、年代別では、20～30代男性は「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」が1位、60～80代女性は「キッチンが女性が使うものだよ」と「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」が同率1位という結果に。家事＝女性という思い込みに対する違和感はシニア世代の女性の中だけでなく、20～30代男性も同様に感じていることから世代を超えて違和感をもたれる言葉であることが見て取れます。

さらに、20～30代男女で「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」「同棲ってことは結婚するんでしょ」が3位以内にランクイン。「社会人になったら一人暮らしをすべき」「同棲したら結婚すべき」と押し付けられていることに違和感を抱いていることが考えられます。

60～80代男性は「長男だから、いつか親と同居するでしょ」が1位に。古くからの慣習に違和感を感じている様子が見受けられました。40～50代男性・女性共に3位の回答が分散し、多数の言葉が該当しました。

シングルマザー/ファザーに聞いたアンコン語は「女性が家を買うなんてすごい！」が1位に。「女性＝家を買うのが難しい」という思い込みが違和感を持たれることが浮き彫りになりました。

LGBTQの方の調査からは、1位に「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね。」という結果となり、自由回答では「甘やかされてるのではなく、親の介護や、色々な事情もあるのに」という意見もありました。2位に「世帯主といえば男性でしょう」「シングルマザー/ファザーって探せる家が限られそう」と、世帯主＝男性という慣習やマイノリティの住まいに対して違和感を持たれる方が多いことがわかりました。

「介護」カテゴリ全体においては、「子どもがいないと、老後は面倒を見てくれる人がいなくて不安」という将来の不安に関する介護のアンコン語が1位に。「長男・長女なんだから介護をしなきゃ」「親の介護は、子どもがするものでしょ」と、家族の概念にまつわるアンコン語が続きました。「介護は家族がするものだ」と押し付けられていることに、違和感を感じていることが考えられます。

住まい

1位 「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」

2位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」

3位 (同率) 「女性が家を買うなんてすごい！」
「夫婦で新しい家を探すなら、子ども部屋も考えておかないと」

介護

1位 「子どもがいないと、老後は面倒を見てくれる人がいなくて大変」

2位 「長男・長女なんだから介護をしなきゃ」

3位 (同率) 「親の介護は、子どもがするものでしょ」
「仕事と介護を両立するのは無理だ」

対象者別、違和感を感じた「住まい」に関するアンコン語

20～30代男性

- 1位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」
- 2位 「同棲ってことは結婚するでしょ」
- 3位 「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」

40～50代男性

- 1位 「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」
- 2位 (同率) 「キッチンが女性が使うものだよ」
「家に書斎があるなんて、ご主人がうらやましい！」
「世帯主といえば男性でしょう」
「夫婦で新しい家を探すなら、子ども部屋も考えておかないと」
「高齢だと家賃を払うのが大変そう」
「男は家を買ってはじめて、一人前だ」
「男性なら転勤をしても問題ないでしょ」
「引越しは子どもがかわいそう」

60～80代男性

- 1位 (同率) 「長男だから、いつか親と同居するでしょ」
「男は家を買ってはじめて、一人前だ」
- 3位 「夫婦で新しい家を探すなら、子ども部屋も考えておかないと」

20～30代女性

- 1位 「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」
- 2位 (同率) 「夫婦で新しい家を探すなら、子ども部屋も考えておかないと」
「同棲ってことは結婚するでしょ」

40～50代女性

- 1位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」
- 2位 「長男だから、いつか親と同居するでしょ」
- 3位 (同率) 「女性が家を買うなんてすごい！」
「同棲ってことは結婚するでしょ」
「外国籍の人はパーティをひらいて騒ぐからイヤ」
「車椅子の人は、バリアフリー物件じゃないと暮らせないよね」
「リモートワークしている人は、ちゃんと仕事していなさそう」

60～80代女性

- 1位 「キッチンが女性が使うものだよ」
「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」
- 2位 (同率) 「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」
「長男だから、いつか親と同居するでしょ」

シングルマザー/ファザー

- 1位 「女性が家を買うなんてすごい！」
- 2位 (同率) 「引越しは子どもがかわいそう」
「長男だから、いつか親と同居するでしょ」

外国籍の方

- 1位 (同率) 「女性が家を買うなんてすごい！」
「リモートワークしている人は、ちゃんと仕事していなさそう」
- 3位 「キッチンが女性が使うものだよ」

LGBTQの方

- 1位 「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」
- 2位 (同率) 「世帯主といえば男性でしょう」
「シングルマザー/ファザーって探せる部屋が限られそう」

障がい者の方

- 1位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」
- 2位 (同率) 「キッチンが女性が使うものだよ」
「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」
「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」
「都会に住んでいる人は冷たい」
「定年後は田舎でのんびり暮らすのが良いでしょう」

自由回答 ※一部抜粋

「言われて、違和感を感じた」言葉の中から、“最も記憶に残っていること”をお選びいただき、その経験をされた際のエピソードや実際に言われたことなどを教えていただきました。（シングルマザー/ファザー、外国籍、LGBTQ、障がい者の方に関しては性年代を明記しておりません）

アンコン語	生活者の声
「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね」	生活費を家に入れて、家事もしているのに、不本意に思った。(20代女性)
	貯金をできているのも実家暮らししているから、自分の努力じゃなく親のおかげだといわれた(20代女性)
	甘やかされてるのではなく、親の介護や、色々な事情もあるのに
「同棲ってことは結婚するんでしょ」	結婚を考えてなかったのに当たり前のように言われた(20代女性)
「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」	家事は女性だけがすることではないと思うのですが 当たり前のように言われ嫌悪を抱いた(50代女性)
	奥さん以外も家事をする可能性がある(50代女性)
	現地案内されたときに言われた。家事をするのは女性という古い考えから 抜けきれていない昭和の人とだと思った。(30代男性)
	部屋の間取りにこだわっていた際言われた(30代男性)
「キッチンが女性が使うものだよ」	料理は女がするものときめつけている(70代女性)
	男性も使う。両立して欲しい(70代女性)
「長男だから、いつか親と同居するでしょ」	叔父から言われて、嫁と相談して怒られた。(70代男性)
「女性が家を買うなんてすごい!」	わざわざ女性と付けなくても良いし、女性を軽視している感じがして不快だった
「リモートワークしている人は、ちゃんと仕事してなさそう」	日本では新しいことを認めない人は多いのでリモートワークを認めない人が多いです
「高齢だと家賃を払うのが大変そう」	実母が高齢なのでこれから先の家賃が大変ではないかと
「子どもがいないと、老後は面倒を見てくれる人がいなくて大変」	子どもに老後の面倒をみさせる為に子どもを産むわけではないと思った

「3」 「思ったことがあるアンコン語」ランキング

本設問では、「思ったことがあるアンコン語」をランキング化しました。ランキングは、「住まい」「介護」の2カテゴリーで作成しました。

- ・「住まい」のカテゴリーでは、「高齢だと家賃を払うのが大変そう」が1位にランクイン。将来、高齢になったときの暮らしに不安を感じている様子が見受けられました。
- ・20～30代男女において「夫婦で新しい家を探すなら、子ども部屋を考えておかないと」が1位にランクイン。家探しの中で、「子ども部屋」が必要だという思いをもっている方が多い結果となりました。
- ・「介護」のカテゴリーでは、「仕事と介護を両立するのは無理だ」が1位に。キャリアを築く中で、介護が大きな不安要素になっている様子がうかがえました。2位と3位は「子ども」に関する介護のアンコン語がランクインし、子どもがいないと老後は面倒を見てくれる人がいないのではという不安を持っている様子も見受けられました。

住まい

1位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」

2位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」

3位 「車椅子の人は、
バリアフリー物件じゃないと暮らせないよね」

介護

1位 「仕事と介護を両立するのは無理だ」

2位 「子どもがいないと、老後は面倒を
見てくれる人がいなくて大変」

3位 「親の介護は、子どもがするものでしょ」

対象者別、思ったことがある「住まい」に関するアンコン語

20～30代男性

1位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」
(同率) 「夫婦で新しい家を探すなら、
子ども部屋も考えておかないと」

3位 「世帯主といえば男性でしょう」
(同率) 「同棲ってことは結婚するんでしょ」

40～50代男性

1位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」

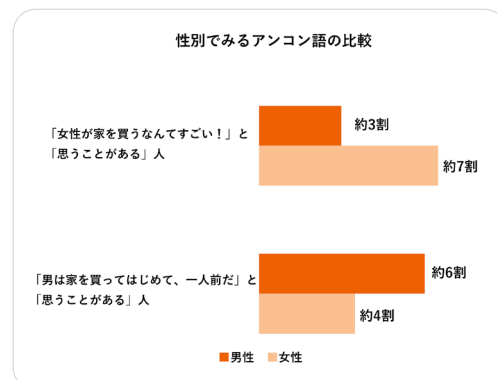
2位 「夫婦で新しい家を探すなら、
子ども部屋も考えておかないと」

3位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」

60～80代男性 1位 「長男だから、いつか親と同居するでしょ」 「男は家を買ってはじめて、一人前だ」 3位 「夫婦で新しい家を探すなら、 子ども部屋も考えておかないと」	20～30代女性 1位 「夫婦で新しい家を探すなら、 子ども部屋も考えておかないと」 2位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」 3位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」
40～50代女性 1位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」 2位 「女性が家を買うなんてすごい！」 3位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」	60～80代女性 1位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」 2位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」 3位 「車椅子の人は、バリアフリー物件じゃないと暮らせないよね」
シングルマザー/ファザー 1位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」 2位 「車椅子の人は、バリアフリー物件じゃないと暮らせないよね」 3位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」 「夫婦で新しい家を探すなら、子ども部屋も考えておかないと」	外国籍の方 1位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」 2位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」 3位 「車椅子の人は、バリアフリー物件じゃないと暮らせないよね」
LGBTQの方 1位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」 2位 「車椅子の人は、バリアフリー物件じゃないと暮らせないよね」 3位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」	障がい者の方 1位 「高齢だと家賃を払うのが大変そう」 2位 「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」 3位 「車椅子の人は、バリアフリー物件じゃないと暮らせないよね」

性別に対する「アンコン語」を異性が思っているとは限らない!?

自認している性で比較すると、「女性が家を買うなんてすごい!」と「思うことがある」人の割合は男性が約3割、女性が約7割と男性よりも女性が多いという結果となり、「男は家を買ってはじめて、一人前だ」を「思うことがある」人の割合は自認している性別で比較すると男性が約6割、女性が約4割と女性よりも男性が多い結果となりました。性別による住まいのアンコンは異性だけではなく、同性も持っているということが明らかになりました。



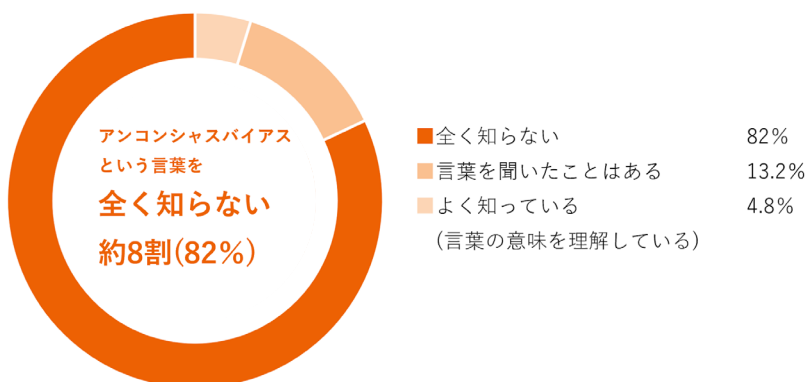
「4」 アンコンシャスバイアスという言葉について

あなたは「アンコンシャスバイアス」という言葉をご存じですか。（SA）

アンコンシャスバイアスに対して、82.0%が「全く知らない」と回答。「言葉を聞いたことがある」と「よく知っている」合計で、知っている方は2割以下に。しかし、「アンコンシャスバイアス」という言葉自体は知らないが、実際になんらかのアンコン語について「思ったことがある」人は61.7%と、半数以上いるという結果になりました。

Q10.あなたは「アンコンシャスバイアス」という言葉をご存じですか。[SA]

※アンコンシャスバイアスとは？ 私たちは、何かを見たり、聞いたり、感じたりしたときに、実際とは別に、無意識に“こうだ”と思い込むことがあります。これを、アンコンシャスバイアスといいます。日本語では「無意識の思い込み」とも表現されている概念です。



自分自身のアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）に気づくにはどうしたらよいと思いますか。（FA）

- ・「思い込みは誰にでもあることを前提として、互いがそれを受け入れつつ、合意を形成していくことが必要」
- ・「例えば、その人の外見だけでその人の素性の決めつけをしないこと。人から誤解されて言われた時、自分もそうしていないか思い返してみること。」
- ・「自分の思考をまとめて、客観的にみてる時間をつくる。真逆の立場（考え方など）にいる人達と相対的にみて、理論的なおかしさがいないか、もしくは人間の感情を度外視してないか、中立な立場で自身を俯瞰する」

「5」

アンコン語を防ぐには？

一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事 守屋智敬さんより



守屋 智敬 一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事

2018年、ひとりひとりがイキイキする社会をめざし、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所を設立、代表理事に就任。企業・官公庁、小・中学校等で、様々なテーマ・視点からアンコンシャスバイアスを届けている。受講者は8万人をこえる。

2022年には、がんと共に働くを応援するための共同研究「がんと仕事に関する意識調査」報告書を発表。著書に、『「アンコンシャス・バイアス」マネジメント』（かんき出版）、『導く力』（KADOKAWA）などがある。

今回、アンコン語としてピックアップした言葉の中から、上位にランクインした10の「アンコン語」について、一般社団法人アンコンシャスバイアス研究所 代表理事の守屋智敬さんからコメントをいただきました。

『新生活アンコン語実態調査』全体を通して

アンコンシャスバイアスは、過去の経験や見聞きしたことに影響を受けてうまれています。そのため、誰にでもあるものです。例えば、自分にとっては「あたりまえだ」や「普通だ」と思うことが、人によってはそうではないことがあります。今回の調査結果は、「無意識のうちに、きつこうだ!」と思っていたことを、「本当にそうかな?」と思いめぐらせたり、アンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）を上書きするきっかけとなる点において、貴重な調査だと思います。

各アンコン語に対して守屋さんのコメント

「家事がしやすい間取りは奥さんが喜ぶね」

「家事は妻がするものだ」というアンコンがひそんでいるかもしれません。性別などの属性で、特定の役割分担を決めつけていないだろうかと振り返ることが大切です。

「社会人になっても実家暮らしなんて甘やかされてるよね。」

「社会人で実家暮らし＝甘やかされている」「甘やかされている＝よくないことだ」等のアンコンがひそんでいるかもしれません。誰とどう暮らすかは人それぞれです。一人ひとりの生き方を尊重することが大切です。

「長男だから、いつか親と同居するでしょ」

「長男は、親と同居するものだ」というアンコンがひそんでいるかもしれません。性別や続柄で、「こうだ」「こうすべきだ」といったことは一概に決められないのではないのでしょうか？

「キッチンが女性が使うものだよね」

「料理は女性がするものだ」というアンコンがひそんでいるかもしれません。性別で特定の役割分担を決めつけていないでしょうか？キッチンを誰がどう使うかは、一人ひとり、住む人によっても異なります。

「シングルマザー/ファザーって探せる部屋が限られそう」

「シングルマザー/ファザー」に対するアンコンがひそんでいるかもしれません。「探せる部屋が限られるかどうか」は、分かりません。また、こうした言葉を言われた側の気持ちに思いを寄せてみていただけたらと思います。

「リモートワークしている人は、ちゃんと仕事してなさそう」

「リモートワークをしている人は、仕事をさぼっている」といった働き方に対するアンコンがひそんでいるかもしれません。出社していないと、「何をしているかが分からない」といった不安もあるかもしれません。

「高齢だと家賃を払うのが大変そう」

「高齢の人は経済的余裕がない」等のアンコンがひそんでいるかもしれません。高齢という属性だけで、ひとくくりに決めていないでしょうか？

「女性が家を買うなんてすごい！」

「女性は家を買わないものだ」「女性は家を買うのが難しい」等のアンコンがひそんでいるかもしれません。性別に対する決めつけたモノの見方はしていないのでしょうか？

「子どもがいないと、老後は面倒を見てくれる人がなくて大変」

「老後は子どもが面倒をみるものだ」というアンコンがひそんでいるかもしれません。誰が、誰を、どう支援するかは、一人ひとり、その時々で違います。家族のありようや、互いのかかわり方を一概に決めつけていないのでしょうか？

「同棲ってことは結婚するんでしょ」

「同棲している人は必ず結婚するものだ」「双方ともに結婚を望んでいるものだ」といったアンコンがひそんでいるかもしれません。生き方やパートナーとのあり方、事情、結婚観などは、人それぞれです。

「男は家を買って初めて、一人前だ」

「男性とはこうだ」や「家を購入してはじめて一人前となる」といったアンコンがひそんでいるかもしれません。賃貸か購入かで、一人前かどうかを決められるものではないように思います。

参考

本調査における対象者の抽出条件について

本調査における調査対象者について

【20～39歳男性】	各100ssを抽出
【20～39歳女性】	
【40～59歳男性】	
【40～59歳女性】	
【60～89歳男性】	
【60～89歳女性】	
【シングルマザー／ファザーの方】	
【外国籍の方】	
【LGBTQの方】	
【障がい者の方】	

各調査対象者の抽出条件について

- 【性別】⇒「自認している性」についての回答によって判別
- 【シングルマザー・ファザーの方】⇒「未婚(離婚 / 死別含む)・子あり」回答によって判別
- 【外国籍の方】⇒「日本国籍を有していない」回答によって判別
- 【LGBTQの方】⇒「出生時の性別」「自認している性別」「性的志向」についての回答によって判別
- 【障がい者の方】⇒「身体的・知的・精神的障がい」についての回答によって判別